

1 開会

- ◆ 教育長挨拶
- ◆ 人権教育推進協議会設置規程について
- ◆ 委員紹介

2 協議

- ◆ 会長、副会長の選出
- ◆ 説明 (教育長、人権教育課)
- ◆ 自己紹介と意見等

第 1 回目の今回は、それぞれの委員さんが現在どういった取り組みをされているのか、その中で感じられている人権課題にも触れてもらいたいと思う。

今回のテーマは、多様性の尊重、一人一人を大切に作る社会を目指して、である。

- ① 最近の子どもたちの課題で思うことは、メンタルが弱い、ということ。人に対しても
のすごく攻撃的な言葉を発する子が、自分に来れば非常に打たれ弱く、傷つきが深い。
人に言っていること、自分が人にされることのつながりが薄く結び付かないところが課
題だと思う。安心して自分らしさを出すことに不安を感じている。

特別支援的なかかわりが保健室にはある。突然パニックになって教室を飛び出して保
健室へ来る子、コミュニケーションが取れなくてずっと徘徊する子などがいる。担任や、
授業者が、教室でこういうことが起こった場合、その子にどうやって関わっていくかを
考えている。

また、保護者の方も、不登校や子どもの問題行動で苦しんでいる。保護者や子どもの
背景まで、どこまで一緒に付き合っていけるかが大事な部分だと感じている。

- ② 本山町の特色は、全国初の、同居連携型中高一貫教育校で進めている。また、小学校
が 2 校、保育所が 1 つあり、0 歳から 18 歳までは地元で、そしてふるさとへをキーワ
ードにしている。

人権教育においても、保育所から高等学校までの先生方が、組織の中で現在は取り組
んでいる。学校教育に関しての課題は、人権教育が、知的な理解の人権の学習で終わっ
て、人権感覚が十分身に付いていないことが課題になっている。

もう一つの課題は、子どもたちの自尊感情が非常に低いことだ。この他にも不登校の
問題、発達障害を中心とする特別支援の学級の課題や子どもたちの心の悩みに答える、
臨床心理士、スクールカウンセラーの相談活動の在り方など学習を成立する前提条件に
付随する課題が多くある。

- ③ 今、苦しんでいる子どもたちの原因となるものは、すべて幼少期に課題になるもの
がある。その時期は、はっきりと分からないが、相談してきた子たちの多くは、「自分が愛
されてなかった。」と言っていた。どこにも自分の居場所がなく、家庭でも当たり前のよ

うに説教され、家にも居場所がない。「消えたい」と思っている。子どもたちがいる。

また、そのような子どもたちは、自分に対してどう思っているのか、本音を求めたがっている。時には、人を試すようなこともする。本当は愛がほしいのに、すなおに受け取れなくなっている。大人という存在にすごく幻滅を感じている子どもが多く、大人を信頼できなくなっている。コツコツと、地道に信頼関係をつくっていくしかないと思っている。

一言で言うなら、人権教育は『愛』だと思っている。

- ④ 今、非常に心が弱い子どもたちが昔と比べ増えてきている。高校の場合、退学の可能性がある生徒たちの背景を見ると、ほとんどに、家庭的な問題がある。子どもたちをとりまく環境に問題があると思う。

また、その子どもたちをリードする教員の側にも半ば精神的な病気がある。職員室の壁に頭をぶつけて、「死にたい、死にたい」とい言うような状況もあり。心を痛めているのは子どもたちだけではない。そういう子どもたちと正面切って向かい合って仕事をしている教員の中にも、精神的なストレスや、病を持った状況の中で勤務をしている者もいる。

- ⑤ スクールカウンセラーをしていて感じたことだが、スクールカウンセラー室に行くことに対する偏見が、学校の先生の中にある。子どもの健全な育ちの支援のためにスクールカウンセラーを利用していただきたいと思う。また、子どもに対して学校の先生が「お前は精神科行きだ」という発言をすることを耳にしたことがある。これも偏見で非常に悲しい。正しい知識を身に付けてほしいと思う。

性同一性障害に近似した状態を呈しているお子さんの相談に乗ったことがある。そこは学校の先生や周りの人たちが、非常にきめ細かな対応をしてくださって、その子は学校に行けるような体制を組むことができた。受け入れ体制をきちんと考えていく必要があると思う。

最後に今いじめで直面したのが、メールのプロフの問題で、いろんないじめとか事件に巻き込まれているケースがある。そのことも学校の先生方が知っておく必要がある。

- ⑥ 私の職場は、18歳以上の障害者の支援施設で、学校や病院から来られた方を、職場や地域への通過施設の役割を果たしているが、私たちの施設だけでは支援が十分できない。また、連携がいかに大事かをものすごく感じている。今、障害を持っている方たちには、重複といって、体に障害がありながら、知的にも障害があるとか、体に障害がありながら発達障害かなと思う方もいる。そこで、学校から私たちは支援を引き継ぐことで情報をいただきたいが、なかなかその連携が難しい。

私が、先日行った学校だが、子どもたちが生き生きしていた。先生は厳しく言うことは言うのだが、それを子どもたちはきちんと聞ける。そして、その子どもたちの顔はとても生き生きとしていて、一人一人が自分というものを思い切り出せている雰囲気、伝わってくる、そんな元気のある学校、元気のある先生と、生き生きとした子どもたちの雰囲気がある学校がいいと思うし、高知の学校はよくなってきていると感じた。

- ⑦ 人権というとみんな難しいというイメージを持っているが、私は人権ってそんなに難しくないと伝えている。私の思う人権とは、誰がいつどこにいても、居心地良くいられるかどうかというのが、1つの物差しになっている。自分の周りに居心地悪そうにして

いる人を見つけたときに、その人がどうして居心地悪そうにしているかとをまず考えてみる。そして問題点があれば、それをどうやって取り除いたらいいか、その人が居心地良くするには自分が何ができるかというのを考えて、それを実際に1つでもやってみるということをすれば、人権をめぐる社会は変わってくると私は思っている。

解放運動のリーダーの人たちから多くのことを学んだ。単に部落問題を解決するというだけでなく、障害者の差別であったり、女性の人権であったり、高齢者の問題であったり、在日コリアンの問題であったり、その起こりは違うかもしれないが、根っこの部分は一緒だということに気付き始め、今ここに座っている。

- ⑧ 気になることを2点お話しします。1点目は、学校で、子どもたちの疑似体験が盛んに行われるようになったこと。基本的に良いことだと思うが、なかには単に体験をして感想を書いて終わりという授業もあるようである。いきなり80歳のお年寄りになる、いきなり車イスを利用するようになる、という体験になるので、とくに不便を感じる。なので、単に「不便だな」「年をとりたくないな」というネガティブなイメージを先行させてしまう危険性もある。これは、人権教育の本質ではないと思う。

「かわいそう」という言葉がある。あまり好きな言葉ではないが、二通りの意味があると思う。きちんと考える授業をやると、同じ「かわいそう」でも、単純に障害がある人を「かわいそう」でなく、障害のある人が過ごしにくい環境があることを深く知って、そんな過ごしにくさを「かわいそう」と表現するのではないか。

2点目は、虐待の問題。児童だけでなく、高齢者や障害者への虐待の問題もある。家庭で介護する人の虐待も社会的な問題になっているし、介護職員の虐待もある。家族だけで抱え込まない、安心して福祉サービスを受けられるようにしないといけないし、人の尊厳を考えられる介護職員を育てていかなければならない。

- ⑨ 私はずっと同和教育に取り組んできたが、同和教育はいわゆる学力を付けて、安定した仕事へ就けていくための進路を保障していく。進路保障は同和教育の総和であるということで、学力を上げていくことにも取り組んできた。

この他にも私たちが常に大事にしてきた、差別やいじめをしない、させない、許さないという取り組みを徹底して学校教育の中で行ってきた。これは同和教育から生まれた言葉です。しない一人称、させない二人称、許さないという三人称というものを徹底してやってきた。

今、私たちが取り組んでいる内容として、就学前や小中高の心身の障害の問題や、差別をしない、させない、許さない。自分を大切にするとともに相手の人も大切にすること、そして、それを日常的に生活行動化させていくにはどうすべきであるかということ、具体的に実践交流している。

- ⑩ 以前、月刊の教育誌にスイスの状況が出ていたが、その短い文章の中に、スイスの子どもさんに日本の記者は「大きくなったら何になるの?」と言って質問をすると、「お父さんがかじ屋だから、僕も大きくなったらかじ屋になる」そういう返事をしたということが出ていた。自尊感情は、人権教育の基本としてよく言われるが、小さいときから子どもが親の仕事を見て、立派なかじ屋さんになりたいと思う環境で大きくなるということは幸せではないかと思う。かつて私が勉強しろ、勉強しろと言ったことは本当に正しかったのかと、考えさせられた。現職の教師の言葉というものは本当に重要だなと思っ

た。

勉強はさせなければならないが、将来を見据えた教育者の子どもの育て方、こういうことがいかに大切か、先生方も学校の職員室で事務仕事をするのも大切だが、現地をみて指導についての勉強をしていただきたい。

- ⑪ 保護者の中には周りに友だちがなく、相談相手もない人がいる。そのような保護者はつつい子どもにあたってしまうこともある。ただ、そのような悩みをなかなか保育士に打ち明けることができない。私が三十数年前に先輩の先生から、「親を裸にして語らすことはしよけれど、その裸になってくれた親に服を着せることが一番難しい。その仕事に就いたがぞね」と言われた。今しみじみとそのことを実感している。

保育所はいろんな家庭から子どもたちが来る。私たちの勝負は、どんなしんどいことがあっても、保育所の門をくぐったその時点から保育所っていいなと思ってもらえるような保育をつくること。保育所に行きたいなと思ったら、子どもも親も来てくれる。そういう温かいまなざしで保育所を運営しましょうと努力している。

- ⑫ 私は人権とは自分の物差しでなく、相手の側に立つ、相手の尺度によって考えるということではないかと思った。人権感覚は、相手の側に立って物事を考えることが一番基本じゃないかと思う。

子どもたちは、今も昔も変わっていないと思う。「今の子どもは」と言わせるような環境にしているのは、私たち親であり、地域の大人である。そういう大人が必要のない間違った情報を子どもにどんどん発信しているのではないかと思う。

児童虐待の件数が非常に多くなっていると思う。その背景には親が若く、親としての十分な教育ができていないことがある。またはそういう組織づくりができていないと思う。今の二十歳前半の若者たちに人権教育をもっと勧めていくような土壌をつくらなければいけない。人権教育を社会教育の中の部分でずっと続けていくことが大事だと思う。

- ⑬ 以前、学校の実態把握をして、取り組みを進めていく必要があるということで、過去にさかのぼり実態調査をした。欠席の多い子の7割程度の子が入学前に不登校、他の学校からの転編入生が3割という状態だった。また、発達障害が疑われる子どもが2割はいる。この他にも、筋ジストロフィーの子どもを受け入れたり、性同一性障害の子どもも何名か受け入れた。

多くの子どもたちが高校を卒業したいとしてやってきた。学校としても受け入れた限りは卒業するまで、できるだけの応援をしたいという思いでやっている。そして、子どもたちにも「あきらめるな」と話している。

いろんな取り組みがあると思うが、家庭と子どもたちを次へつなげていく、出発点まで応援する、という思いでつながり、いろんな方とかかわりあいながら学校として、今ある現状で最大限の努力をしたいと考えている。

- ⑭ DVに関して、身体や命にかかわるような暴力もあるが、私がこの仕事をして感じているのは精神的な暴力である。人間らしく扱われないという女性の深い悩みを聞く。男女間の暴力とか女性に対する人権侵害になるのだが、その周りには子どもたちがいる。その中で子どもたちはどんな思いで育っているか。子どもたちはドキドキしながら、いつ爆発するのだろうかとかと人の顔色を見ながら育ってきている状況が伺える。その結果、親と同じような暴力的な行動をする。暴言を吐く。いろんな面で子どもへの悪影響がす

ごく見られる。

私たちも今一生懸命その対処療法をやっている。しかし、私が最近思うのは幼保の段階が大事である。一人一人が大切にされる。自分を大切にしていんだよ。そして人も大切にしなければいけないだよという、人権教育を小さいときから発達段階に応じてきっちりやっていくこと。予防していくという観点で考えることが重要だと思う。

- ⑥ いろんな学校に行つて思うのは、先生が元気だったら絶対子どもも元気だなということ。講演前や講演後、先生が私のいる前で子どもたちにいろいろなことを言う。そして、講演が終わった後に子どもたちにどう返しているか、その先生と子どもたちのやりとりがうまく成立している学校か、そういうところを注意している。学校入った雰囲気から先生方がどんな感じかなというところで子どもが想像できる。先生を見てものすごく学校風土がわかります。
- ⑤ スクールカウンセラーは非常勤で、週に1回4時間程度もしくは週に2回4時間ずつ学校に行っている。各学校には、一応スクールカウンセラーコーディネーター役の先生がおり、多くは保健室の先生がなっている。私の場合も、保健室の先生で、毎回出勤したときに学校の状況や今日の予定を教えていただく。そして終わった後に今日の報告をさせていただくというような連携の取り方をしている。
- ④ スクールカウンセラーとの窓口が養護教諭というところが多いと思う。私も十数年、窓口をしている。限られた時間の中ではあるが、お互いが情報交換できるときは、いい感じで子どもに向けてみんなの目が行く状態をつくれていると思う。ただ、学校によっては全然違う感覚があるのも事実だと思う。私は臨床心理士の方の力は学校で大事だと思っているので、連携を大事にしたい。

次回に向けてポイントになるキーワードがたくさん出てきた。今回出された意見を基にして事務局で次回以降の柱立てを考えていただきたい。今回恐らく言い足りなかったことがたくさんあると思うので、2回目以降、柱立てに基づいて、お一人お一人の思いやご意見をいただくようにしていきたい。

皆さん、長時間お疲れさまでした。